
料理店ギルドへようこそ。

誰かの助手

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

料理店ギルドへようこそ。

【Nコード】

N2004BA

【作者名】

誰かの助手

【あらすじ】

異世界とかさ、本当に存在していると思う？ 漫画とか小説の話なら、ただ作り話だしそりゃあると思うよ。でも、現実には？ 私の答えは、そんなものないに決まってる。だって現実にあったら、それこそ話題にでもなっただ目されてるはず。しかしそんな話今まで生きてきた中で1度も聞いたことない。だから、これからも今まで通り、何もないうまま普通に過ごしていけるはずだった。何故あの時あのような行動をとってしまったのか、今の自分でもわからない。でもその行動によって、普通に過ごしたいと思っていた自分

の未来を自分で変えてしまったことは、嫌でも受け入れないといけない事実だった。前回描かせて頂いていたものをもう一度書き直させて頂いてます。……1部、1部が長いいため、縦読み推奨かもしれません。今のところ、会話文少な目となっております。

1・00・プロローグ。(前書き)

時間的な問題があるため、一気に1話更新ができません。何日かに分けて1話更新が多くなると思いますが、ご了承ください。

1・00・プロローグ。

彼女は求めた。

いつも通り普通に平和に、これからも過ごしていけることを。

彼は求めた。

狭い部屋に閉じ籠ったままの普通から、抜け出すことを。

神は言った。

普通なんてもの、この世に存在していない、と。

「普通って一体なに？」

このようなことをいきなり聞かれて、ちゃんとした答えを出せる人はいるのだろうか。

もちろん私には無理だ。そもそも普通といっても、その普通という単語の内容自体が個人によって違うため、模範解答を出せなくて当たり前。

私にとっての普通は、強いて言うならば今の生活そのもの。

毎朝早くに起きて、勤め先である料理店に出向き、料理を作って接客したりして、そして夜になっただら寝る。そんな感じのことの繰り返し。

別にこの生活に不満があるわけではない。むしろ満足しているといてもいいほどだ。

職種によっては自分の身を削ってまで街の外のあらゆる場所に生存している、凶暴な魔物と戦わなくてはならないという場合もあるし。それに自分の命を危険にさらしてまで、他人のため戦う意味がわからない。人間、誰でも自分の命が1番大事だし、自分にメリツトがなければ面倒事なんてやろうとも思わない。

こういう自分を中心とした考えを持った人間のことを、世間では“自己中”というらしいが、これも人間にとって普通だと私は考える。いや、これは人間に限らず、この世に生を受けているもの全てに当てはまるのではないかな。

例えとして、自分が何か得体の知れない敵に襲われそうになっているとする。敵の大きさは自分より大きく、武器は……まあ適当に鋭利な刃物、包丁とかでいいかな。とにかく攻撃されたら一溜りもないものってことで。で、敵の情報をまとめると、大きな図体とよく切れそうな包丁を持っている敵が、今にもこっちに襲いかかってきそうである。対抗して戦うにしても、自分に武器はなく、素手で対抗するわけにもいかない。逃げるにしても、敵の素早さも測定できないため、全力疾走をしても捕まるかもしれない可能性も。

そして、ここであることに気が付く。

ふと隣に目を向けてみれば、自分と同じように武器を持っていない、抵抗のしようのない見知らぬ人間がもう1人。しかもその人は腰を抜かしているため、走って逃げることは不可能な絶体絶命という状況。

ここで1つ、生き延びるための条件を加えてみる。

“どちらか1人が犠牲になれば、もう1人は確実に逃げるこ

出来、助かる”という条件を。

条件と隣にいる人の状況も考えて、そこで表れる選択肢は、考えずともこの3択に絞られる。

- 1、腰を抜かしている人を担いで、一緒に逃げる。
- 2、腰を抜かしている人を置いて（その人を犠牲にして）、1人で逃げる。
- 3、自分を犠牲に、腰を抜かしている人を助ける。

どれを選ぶかなんて、答えは見えているでしょ？

正義感とか無駄な考えは抜きとして、自分の命が大事なら3を選ぶことはまずない。赤の他人のために、自分の命を犠牲にするとか何のメリットもないしね。

次に1の選択肢。人1人を担いで逃げるということは、担がれる人の体重にもよるが、結局軽くも重くもその分逃げる速さは少なからず減速する。敵の素早さを測定出来ない以上、捕まる可能性は高い。運が悪ければ2人とも捕まっては、お終い。

となると、残るは2番。これが最も助かる確率の高い選択肢。こんな状況に陥ったら、私は迷わず2番を選ぶだろう。

理由？ そんなもの、分かりきっている。

何回も言うけど、自分の命が1番大事だから。

脳内ではもう1人の人も一緒にとか思っても、そんな考えは一瞬で消え去る。生き物なんて、命が危機的状況に晒されたら本能的に“自分だけでも助かりたい”って思うのが普通だ。それに加え、本能が恐怖心と焦りで煽られ始め、最終的には自己中心的な考えしか出来なくなる。

詰まる所、結局生き物なんて1番自分が大切なのだ。そう考えるのが普通であり、その逆の考えを実行する人がいるのならば、悪い

けど私は馬鹿なんだとしか思えない。

今もこれから、そう思っているだけのはずだったのに。

私は今まさに、自分の普通をぶっ壊すような行動をとってしまった。
ていた。

先ほどの選択肢から、今の状況に1番近いものを選ぶとしたら、
それは1番最悪なもの。

自分を犠牲に、赤の他人を助ける。

考えたくもないある単語が、頭の中を猛スピードで駆け巡ってい
く。

そう。これから私の身に待っているのは、予想せずとも“死”の
一文字だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2004ba/>

料理店ギルドへようこそ。

2012年1月5日00時48分発行